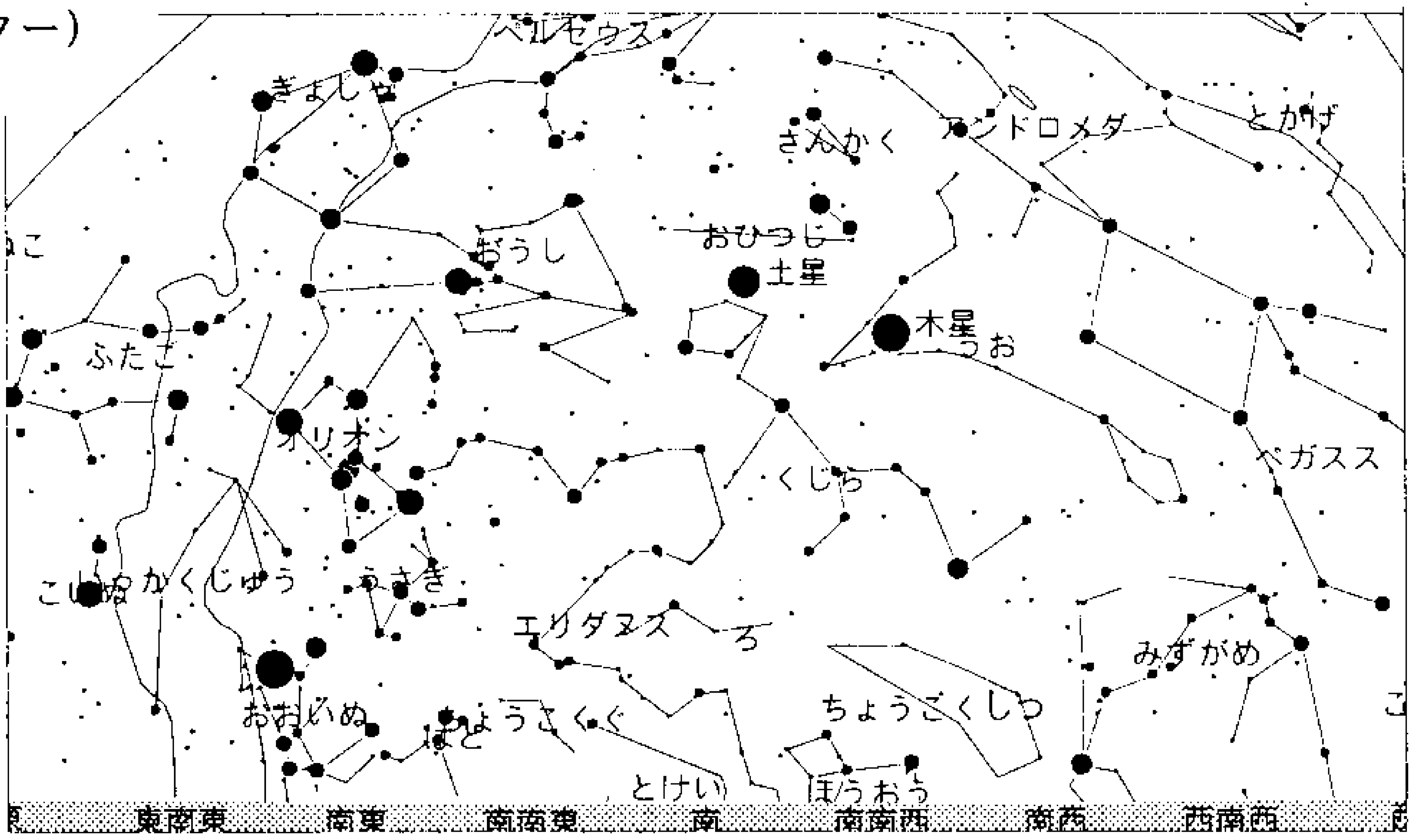
冬の星空

２０００年まであとわずか。冬の使者であるオリオン座が東の地平線から登り、南中する頃、夜空は華やかな冬の星座で埋めつくされます。関東の冬は透明度がよく晴天率も高いので星を観測するには最もよい季節です。大きな天文現象としては、１１月に話題を呼んだ「しし座流星群」に続いて１２月は「ふたご座流星群」が極大になります。一晩中流れ星が飛びますので暗い場所に出かけたら夜空を眺めてください。

−−−＜１２月の星空カレンダー＞−−−

３日（金）　水星が西方最大離隔
４日（土）観望会(児童センター)
６日（月）月と水星が接近
８日（水）●新月
１４日（火）　双子座流星群
１６日（木）◑上弦の月
１８日（土）出張天体観望会
２３日（木）○満月　(宮寺)
２９日（水）◐下弦の月

右の星図は、１２月中旬夜９時ごろ、南の方向を中心に見た星空です。
南天に明るく輝く星が木星そして、そのすぐ東側のやや明るい星が土星です。



【水星】明け方の東南東天で輝きます。水星は太陽に近い天体のため、観望できる期間が短いのが特徴です。あの有名なコペルニクスでも水星を見たことがないと言われています。夕方に水星が出現した時は、児童センターの天文台でもお見せします。

【金星】明け方の東空に一番星として輝くのが金星ビーナスです。４日の明け方には月のすぐ右下に金星が輝きます。少し早起きして東空を観望してみませんか。

【木星】南の空に明るく光っているのが木星です夜半過ぎには沈みます。１８日には月の近くに明るく輝きます。

【土星】おひつじ座を移動しています。望遠鏡を使用すると、美しい環が見えてきます。右に見える木星の半分位の明るさです。１９日には月に接近します。

【火星】夕方の南西天の低空ですが、まだ見えます。夜８時頃には沈んでしまいますが、おとめ座にある赤色の星を探して下さい。

ふたご座流星群をみよう！

「ふたご座流星群」は夏のペルセウス座流星群と同じように毎年きまって起こる天文現象で、三大流星群のひとつです。極大は１２月１３日（月）〜１４日（火）の夜です。月が午後９時ころ西へ沈みますので、条件としては見やすくなります。郊外の暗い場所でクリスマスへの願いを込めて「ふたご座流星群」を観望して下さい。